

れからも自然というフィールドのなかで活動していきたい。

(52代/1回生)



2003年秋 淀川筏下り合宿より

ワクワク。

加門 佐知子

中学の頃は、陸上部のサボリ魔で、高校の頃は写真部。関大に入ったのは文学部の映像文化専修で映画の勉強をするため。めんどくさがりな上に思いっきり文化系。そんな私が、文化会とはいえ探検部なんていうものすごいアクティブなところにいるのは、いまだに自分でも不思議。

探検部に入るキッカケも、実はゲームや映画からだったりする。“探検部”という文字を初めて目にした瞬間、私の頭の中では「ドラクエのような大冒険!」「ジブリのような大自然!」それ

から、大好きな映画のワンシーンが頭を駆け巡る。『明日、鍾乳洞に行くぞ』と言って、ほんとに突然主人公たちが鍾乳洞に行ってしまうシーン。憧れだった、普通に鍾乳洞に行くという感覚。かっこいい。探検部に入ったら、それが叶うと思って気がつけば入部。でも今は、川が中心とのことで、先輩に連れられ休みの日なんか川へ行く日々。鍾乳洞とは違うけれど、しんどいと思うこともあるけれど、なんだか楽しくやってるから、また不思議。

何より、生まれも育ちも大阪市内、祖母の家は徒歩5分圏内で帰省する田舎もない私にとって、探検部で行く自然だらけの場所(ほんとに怖いぐらい)は、とてつもなく新鮮で、魅力的でもある。なんだか、きっとこれはワクワクっていう感覚なんだろう。こういうワクワクをずっと持ち続けながら、どんどん大きなことに挑んでいければと思う。

入部して2ヶ月と少し。本当についていくのがいっぱいいっぱい、それでも「まだ2ヶ月しか経ってないんや」と思うくらいに濃くて、早い2ヶ月。実は、この原稿を書いている翌日から初めての合宿。頑張らなきゃ、一人前にならなきゃと思いつつも、ワクワクの方が大きかったりする。

(52代/1回生)